

研究活動における生成 AI の利用について

生成 AI は、適切に利用されれば有用なツールとなりえ、また、今後さらなる技術的な進歩が見込まれる中で、これまでにない新たな利用に発展する可能性を秘めています。一方で、情報漏洩やバイアス情報の生成、著作権の観点等から、生成 AI がもたらす様々な課題やリスクへの対応が求められます。

研究活動において生成 AI を利用するにあたり、北陸大学研究倫理綱領に基づき、研究に携わる全ての教職員が、これらの技術を適切に利用することを常に自覚し行動されるよう、留意事項を以下のとおり示しますので、理解を深めていただきますようお願いいたします。

1. 未発表の研究成果や個人情報、秘密情報等を入力しない。

生成 AI は、入力された情報を学習データとして収集・蓄積するため、意図せず情報が外部に漏れる可能性があります。セキュリティ面での課題があることを理解し、研究上の秘密情報、大学の機微情報、未発表の研究成果、特許出願関連情報、個人情報等は入力しないでください。

2. バイアス情報や虚偽情報に留意する。

生成 AI は、様々な大量のデータを学習し、確率的に最も高い組み合わせを出力するため、生成された内容にバイアスや偏見、虚偽が含まれている可能性があります。出力された内容が適切であるか慎重に確認・裏付けを行った上で、生成物の利用を検討してください。

3. 生成 AI から得た内容をそのまま利用しない。

論文等の作成にあたり、生成 AI によって生成された文章、画像、音声等は、生成 AI の使用者が独自に作成したものとして公表し、著作権を主張することは認められません。生成 AI を利用した場合は、透明性を確保し、どのように使用したかの情報を提供することが必要です。論文投稿の際は学術誌の投稿規程を確認し遵守してください。意図せず研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）につながる可能性があることを認識し、倫理的・道徳的責任を自覚して利用してください。

なお、卒業論文等の作成に関する生成 AI の利用については、2023 年 6 月 22 日付け「ChatGPT 等の生成系 AI の授業における利用について」に従うこととします。

今後も文部科学省等から情報収集を行いながら、生成 AI の社会での普及状況等に応じて随時改訂していきますので、最新情報を参照するようご注意ください。

以上